

しょうわ つうしん Show-a 通信

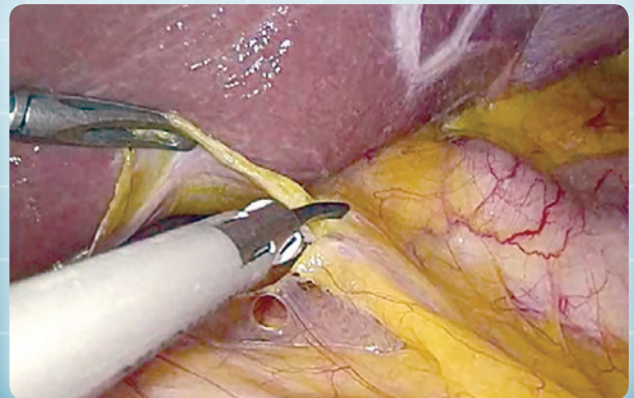
2017.9
第22号

北海道消化器科病院は消化器病分野の最先端治療で地域医療に貢献しています。

医療法人彰和会の「彰和（Showa）」と明らかにするという意味の「Show」を合わせて、「Show-a通信」としました。
私たちの仕事をお知らせすることで、消化器科領域の最新医療をお伝えします。

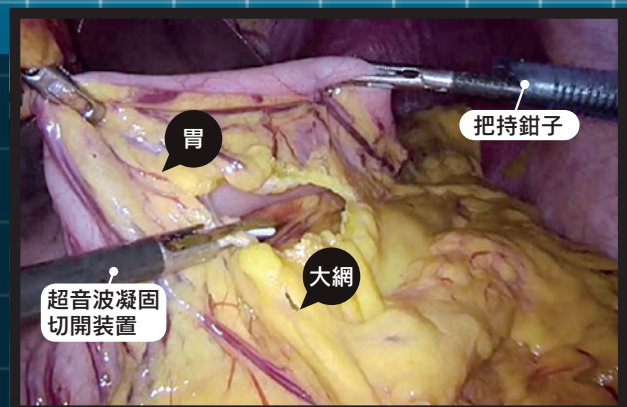
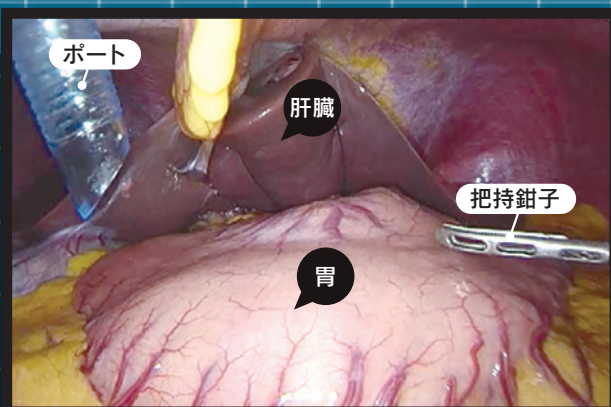
進歩する内視鏡外科手術で 患者さんのQOLを確保する

消化器外科 医長 福島 正之



進化を続ける内視鏡を使った治療

内視鏡は「胃カメラ」「大腸カメラ」として全国の病院に普及しました。近年、内視鏡を使って消化管のがんを切除する「内視鏡治療」や、腹腔鏡という内視鏡を使った「内視鏡外科手術」が、開腹手術に代わって行われています。術野を拡大しモニタに映して処置ができることから、安全に病変を摘除することが可能です。日本のレベルは世界でもトップクラスとされています。



進歩する内視鏡外科手術で

患者さんのQOLを確保する

日本内視鏡外科学会技術認定医が4人そろそろ
北海道消化器科病院の役割

日本内視鏡外科学会の審査に合格した「日本内視鏡外科学会技術認定医」が当院には4人在籍し、全ての内視鏡外科手術に関する体制ができています。特に、胃がん・大腸がんの高難度手術を得意とし、種々の術式に対応しています。



がん治療に力を注ぐ
北海道がん診療連携指定病院

北海道消化器科病院では、消化器外科医6人、消化器内科医7人と、病理医や緩和ケア内科の医師、看護師、薬剤師、放射線技師、臨床工学技士などがチームを組んで診療を行っています。扱っている疾患の約6割は消化器領域のがんです。北海道から指定された「北海道がん診療連携指定病院」として、胃がん、大腸がん、食道がん、胆道がん、肝がん、膵がんなど、数多くのがん治療に取り組んでいます。消化器内科医が、リンパ節転移がない早期がんを対象に内視鏡治療（ポリペクトミー、内視鏡的粘膜切除術・EMRなど）を行います。

消化器外科医は、内視鏡治療では切除できない粘膜下に浸潤したがんを対象に内視鏡外科手術を行います。内視鏡外科手術ができないがんは開腹手術を行います。深達度やリンパ節への転移、遠隔転移の状態に基づいて切除範囲を決めています。

抗がん剤治療（化学療法）、放射線治療、緩和治療も組み合わせながら、検査、診断、

消化器外科

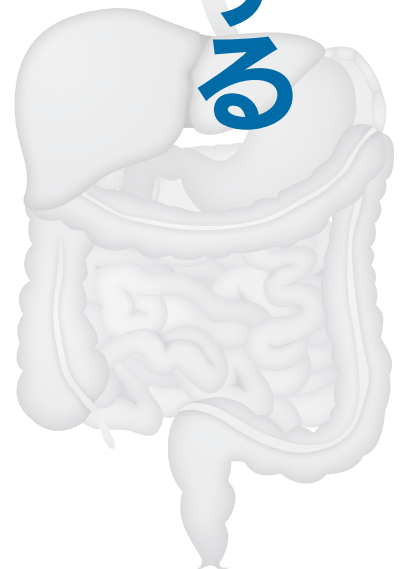
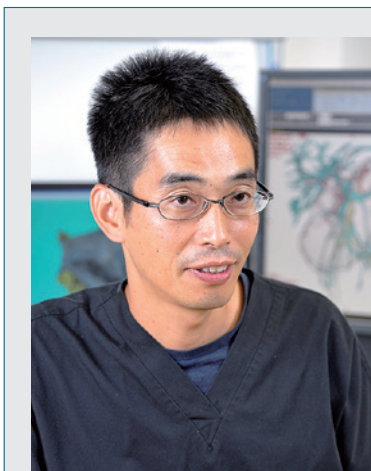
医長 福島 正之



産業医科大学医学部卒業
産業医科大学病院第一外科、新潟労災病院、北海道大学病院消化器外科II、札幌清田病院を経て、2016年4月に北海道消化器科病院に着任

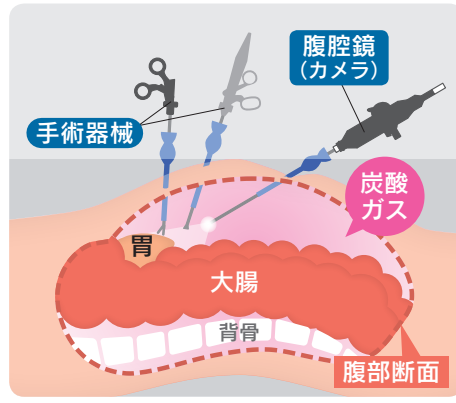
【学会認定資格】

- 日本内視鏡外科学会技術認定医
- 日本大腸肛門病学会専門医・指導医
- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本消化器外科学会専門医・指導医
- 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 内痔核治療法研究会四段階注射法講習会受講証



内視鏡外科手術

腹腔や胸腔に1cmほどの切開を数カ所開け、そこから腹腔鏡（カメラ）や特殊な鉗子などの手術器械を挿入し、ビデオモニタ画面に拡大された術野で病変を確認しながら摘除を行う手術です。傷跡も小さく目立ちません。術後の痛みも少なく早期退院や社会復帰が可能です。



北海道消化器科病院の
日本内視鏡外科学会技術認定医

院長 森田 高行
副院長 藤田 美芳
医長 福島 正之
医長 檜崎 肇



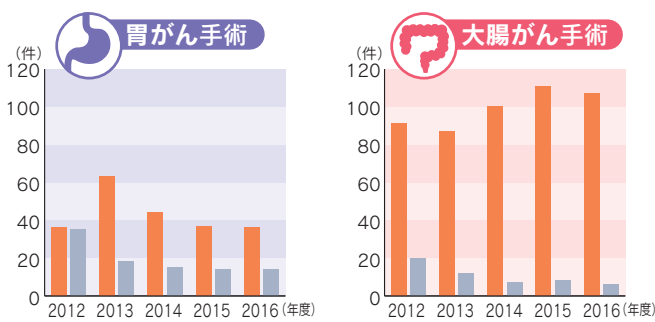
治療を一貫して提供できる院内体制を整えています。

術後の回復が早い 内視鏡外科手術

当院では特に内視鏡外科手術（腹腔鏡手術・胸腔鏡手術）に積極的に取り組んでおり、全身麻酔下手術年間約600例（2016年実績）のうちの約7割が内視鏡外科手術です。

2017年8月までのがん治療の実績では、腹腔鏡下大腸切除術が1488例と道

胃がん・大腸がん腹腔鏡率



外来受診から治療までの流れ

消化器内科医が、病状や全身状態を把握するための検査を行います



血液検査



胸部・腹部X線



上部・下部消化管内視鏡による観察と生検 など

画像検査で、がんの形状、リンパ節転移、遠隔転移の有無を確認します



腹部超音波検査



CT検査



PET検査



MRI検査 など

手術カンファレンスで、術式を検討します
消化器内科・消化器外科・放射線科・病理医の合同会議で各手術症例について最善の治療方法を探り、術式を検討



患者さんと家族に確定診断を説明し、治療方針を決定します



内視鏡治療

内視鏡外科手術
(腹腔鏡手術、胸腔鏡手術)

開腹手術



消化器外科医が術後の経過観察を行います

※疾患や病状によって、流れは異なります

経験豊富な学会認定医を 中心とした治療体制

内では最多の症例数を誇り、腹腔鏡下胃切除術は465例となっています。これまで開腹手術を選択せざるを得なかった症例でも、患者の負担軽減やQOL（生活の質）の確保という観点から内視鏡外科手術が選択されるようになり、標準的治療法となりつつあります。

内視鏡外科手術は従来の開腹手術とは使用する装置や器械が全く異なり、術者は難

しい手技を習得しなくてはなりません。そのため日本内視鏡外科学会では、安全で高度な手技を浸透させるために技術認定制度を設け、「指導医」のレベルに達しているか審査・判定を行っています。合格率は30%前後と厳しいものです。当院には審査に合格した「日本内視鏡外科学会技術認定医」が4人在籍し、全ての内視鏡外科手術で安全性の高い適切な治療を提供できる体制を整えています。

内視鏡外科手術に関わる看護師、臨床工学技士なども高い水準の技術を持ち、さらなる研鑽に励んでいます。

臨床
工学室

2017年4月「臨床工学室」開設
医療機器の専門家として
医療機器の安全性・有効性を確保

北海道消化器科病院では、2017年4月に「臨床工学室」を開設しました。手術室や内視鏡室に臨床工学技士が常駐し、医師や看護師と連携しながら、医療機器の安全性と有効性の確保に努め、準備や操作、保守管理業務を行っています。

チーム医療の一員として不可欠な存在

内視鏡外科手術時には臨床工学技士がスコープのセッティングやスコピスト（カメラ持ち）として加わり、円滑な手術のサポートをしています。内視鏡で胃の内部を観察しながら、腹腔鏡下で胃がんの摘除を行うLECS（レックス）では、内視鏡と腹腔鏡のシステムを同時に運用・管理する



臨床工学技士
平下 尚稀



臨床工学技士
主任 川西 啓太

【資格】
消化器内視鏡技師
大腸カプセル内視鏡読影技師
小腸カプセル内視鏡読影技師
第2種滅菌技士

2017年10月からは
3人体制になります



LECS時の介助



腹腔鏡手術でのカメラ持ち



CARTでの腹水処理



腹腔鏡のセッティング

など、最新手術法には欠かせない存在です。

内視鏡室では内視鏡を使った、病変の観察や組織の採取、止血やポリープの切除などで処置具を操作し、医師の介助を行っています。胃がんに対する治療や胆膵疾患に対する治療も施行しているため、多岐にわたり専門的知識が必要とされます。病棟ではCART（腹水濾過濃縮再静注療法）やG-CAP（顆粒球吸着療法）などの治療も担当しています。

臨床工学技士の2人は「検査や手術において臨床工学技士の役割がより重要になっていきます。新たな知識と技術の習得を怠らず、検査や手術の安全性と有効性をしっかりと確保したい」と熱意を語ります。

主な業務内容

手術室業務

消化器手術関連機器の準備と医師の介助

腹腔鏡システム装置のセッティングや点検、消化器手術での器械出しやカメラスコープ助手、外回り業務、スコープの洗浄・滅菌など、手術機器全般の保守・点検・管理

HCU・病棟業務

医療機器の管理と血液浄化

医療機器（人工呼吸器、生体情報モニタ、輸液ポンプ、シリンジポンプなど）の管理などのほかに、潰瘍性大腸炎やクローン病の治療「G-CAP」での血液浄化業務も担当

内視鏡室業務

消化管内視鏡検査および治療の準備と医師の介助

検査や治療に使用する内視鏡システム装置のセッティングや点検、スコープや処置具の洗浄・滅菌などのほか、各種検査介助、ポリペクトミーや止血等の治療介助

医療機器管理業務

MEセンター立ち上げを準備中

医療機器の保守・点検・修理や管理業務が効率的に行えるよう、MEセンターの立ち上げを準備中



医療法人 彰和会
HGH 北海道消化器科病院

消化器内科、腫瘍内科、内科、消化器外科、外科、肛門外科、
緩和ケア内科、放射線科、麻酔科、病理診断科

- 設立：1988年2月20日
- 住所：札幌市東区本町1条1丁目2番10号
- 電話：011-784-1811 □ FAX：011-784-1838
- ホームページ：http://www.hgh.or.jp/
- 病床数：199床